
枝萌え 第三章「枝(芽吹き)」

八千代

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

枝萌え 第三章「枝（芽吹き）」

【Nコード】

N2844W

【作者名】

八千代

【あらすじ】

枝萌えシリーズ、第三章。

自分のサイトで公開済みです。

「枝（芽吹き）」

初夏。

新緑の季節である。

花壇に撒いた種から、枝の節々から、四月に出会った男女の関係から、小さな芽が一斉に芽吹く季節。

昨年の初夏、私は中庭の片隅であなたを見かけた。

あなたは空を見上げておられて、私はそこを通りすがった。

晴天だったその日、病棟に根を生やしていたあなたは、中庭に出て久しぶりの光合成をしていたのだろうか。

その時のあなたの空気はうっすらと透けていたから、そうに違いはない。

その瞬間、あなたは全身で呼吸をしておられた。

黒いシャツの袖から伸びた枝のような細長い腕や、ベージュのハイパンツから生やしたひよろりとしたもやしの根っこのような足で、しかしあなたは浮遊することなく、乖離することなく、懸命に存在していた。生きていた。

私は初めてあなたを見た時、白い枝のようだと思った。

その後、私はあなたと何度もその場所ですれ違うことになる。

それはその真冬に二人の人生が交錯する瞬間まで続いた。

気が付いたら季節が一巡りしていて、もうすぐあなたに出会った初夏がやって来る。

今度は二人で時間を共有出来るような、そんな初夏が来る。

-
f
i
n
:
-

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2844w/>

枝萌え 第三章「枝(芽吹き)」

2011年10月9日15時55分発行